

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192700223	
法人名	医療法人万裕会	
事業所名	グループホームラルゴ	
所在地	岐阜県高山市新宮町700-400	
自己評価作成日	令和2年10月15日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&jiryosyoCd=2192700223-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人の強みを生かし、介護・医療・福祉の連携のもと「年をとっても、障害や認知症になっても住み慣れた地域でいつまでも自分らしく生きることができる」支えとなるよう、24時間365日必要なときに安心して暮らせるサービスの提供を行っている。また、認知症の高齢者に対して、専門的なケアを提供できるスタッフを配置し、精神的・身体的な機能回復だけでなく、自宅に引きこもりがちになるり、社会的に孤立する不安を解消し家族の介護負担の軽減を刷ることを目的としています。日々の機能訓練、外出支援、年中行事、外部との交流会、日々の食事作り等、今までの日々の生活うが継続できるよう支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、障がい福祉サービスや高齢者福祉サービス等の複数の事業を展開し、約20年の歴史を持つ医療法人である。今年2月にグループホームを開設し、地域包括ケアに取り組みながら、地域とのつながりを構築している。利用者の身体機能維持と共に、主体的に生活できる為のケアを重視し、職員がゆとりを持って利用者向き合える人員配置を行っている。専門職による機能訓練や医療連携も充実している。また、職員が育てている小型犬との触れ合いも、利用者の癒しとなっている。新型コロナ感染予防対策で、大変な状況にあるが、単に行動を制限するのではなく、三密を避けた環境作りに努めながら、支援に取り組んでいる

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、「住み慣れた環境で、医療・介護・福祉の連携のもと、良質で心のこもったサービスを提供し、障害や、高齢になっても、住み慣れた環境で安心して生活が継続できる地域拠点とする」に基づき管理者職員は毎回の職員会で唱和し共有実践している。	事業所開設は今年であるが、障がい児者施設、高齢者施設等、複数の事業を展開し、約20年余の歴史を持つ法人である。法人理念を基に、利用者が住み慣れた地域で自分らしく暮らせるよう支援し、理念の実践に努めている。事業所独自のパンフレットを作成中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は、コロナ禍という状況下では値域と交流は実際難しい。	法人代表が地域医療医として地域包括ケアに取り組み、地域とのつながりの土台が構築されている。現在、コロナ禍にある為、地域との交流は自粛しているが、町内会長や大家の来訪が時々あり、地域とのつながりを維持している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同上		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナの影響から2月開設よりまだ一度も行えていない。	会議メンバーは、利用者とその家族以外は隣接の小規模多機能型と同じである。コロナの影響により、開設後、一度も対面での会議は開催されていないが、運営報告資料と議事録、ラルゴ新聞をメンバーに持参し、意見を聞きながら運営に反映させている。	新型コロナウイルス感染予防対策により、開設時から、対面での運営推進会議を開催できず、書面会議となっている。コロナ収束後には、地域連携強化の場として、地域の人や家族の参加による会議開催に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話連絡、ケアマネージャー、管理者よりサービスの取り組み状況の報告は頻繁に行っており、市町村担当とは協力関係にある。	法人の包括的ケアの運営で、市担当者とは高齢、障がい、児童と分野を跨いだ横断的な連携をとり、協力関係を築いている。また、担当者の助言を得ながら、助成金や補助金を申請し、有効に活用している。運営推進会議の代替である書面会議録を市担当者等に持参している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待に係る研修等を行い職員に周知実践している。	3か月毎に身体拘束委員会を開催している。毎月の職員会議では、ヒヤリハットや事故について報告を行っている。さらに、拘束をしないことで起こるリスクについても話し合い、検証しながら、適切なケアに努めている。スピーチロックも拘束であると認識を持ち、職員間で注意喚起している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の観察を怠らず利用者にかかわる環境で虐待が見過ごされないよう注視している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者職員は日常生活支援事業や青年貢献制度の研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等には利用者、家族に対し不安が無いように十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族に対して常にヒアリングを行い意見が反映できるようつとめている。	家族とはメールやラインでの連絡について、合意が取れており、適宜、利用者の様子を伝え、ラルゴ新聞や毎月の個別便りも送付している。個別便りには、家族へのお願い欄を設け、担当者、ケアマネジャー、看護師が、それぞれメッセージを書き、家族との信頼関係作りに務めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見を聴く機会を定期的に設け、運営に関して反映させている。	管理者も介護シフトにも入り、現場で職員の意見や提案等を聴いている。職員会議では、誰もが自由に意見や提案を言える環境にある。研修受講の際には、日当や交通費を支給し、職員配置は基準を上回るなど、職員が無理なく働ける環境作りに努め、介護の質の向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備をその都度行い、職員各自が向上心が持てるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修はもとより外部の研修の機会を逃すことなく受けられるよう勤務等の配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に同業者との連絡交流会を持ちネットワークづくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の居場所づくりを、日々の傾聴の中で模索し関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係は日々の連絡を密に行い要望等を伺う機会を十分にとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応は、ご家族のお話を十分聞き取りご利用者のこれまでの生活歴、趣味等をお聞きし何が必要な支援なのかを見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者の意思を尊重し人生の先輩として敬い接するように配慮している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	問題が発生した時はご家族とご本人とお話をし共に生活を支えあう関係を構築できるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で今年は十分にできていない。	利用者一人ひとりの馴染みの人や場所は、入居時のアセスメントで把握しているが、コロナ禍にある為、関係継続の支援は控えている。家族と利用者がLINEの画面を通して、顔を見られるよう工夫したり、限定した家族となるが、窓越しの面会にも取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が孤立せず共同生活が送れるように関わり合いを深められるような支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外部との関りがコロナ禍でも寸断されないようにタブレット面会を行い相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを尊重し意向に沿った暮らしができるように支援している。	帰宅願望が強い利用者に対して、家族や関係者と協議を重ねながら、利用者の思いを第一にした支援に努めている。入居前の暮らしを本人や家族からアセスメントし、その暮らしの維持に努めている。新聞コラムの書き写しやミニ盆栽、読書等、今の暮らしの中で継続できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの生活歴を把握し環境が大きく変化しないように生活のリズムを作っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様一人ひとりのペースを把握し、それぞれの時間軸を最大限配慮し共同生活が送れるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に会議を持ち、ご利用者様がよりよく生活できるように話し合いを行って、結果を反映させている。	利用者と家族の意向を聞き、今の状態を維持するための介護を軸にした計画作りを行っている。パソコンやスマホを活用して介護記録を入力し、データ化された内容を毎月モニタリングしている。それらを活かし、1ヶ月、3ヶ月、半年と利用者の状態に応じた介護計画を作成している。	介護計画は、利用者と家族の意見を反映し、職員と関係者が十分吟味作成している。もう一步踏み込み、事業所が重視している利用者の身体機能維持と共に、利用者主体のケアの本質を職員が意識し、実践できる介護計画作りに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は、電子媒体を導入しリアルに状況がすべての職員と共有できるように見直しを行った。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本来柔軟な対応ができるサービスであるが、よりニーズに合わせた支援が行えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源についてはもともと、既存の事業でかかわっており、地域との共同協力が得られ安全に生活を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人であるため、併設のクリニックが近隣にあり常に医療関係が行える関係になっている。	かかりつけ医は、本人・家族が選択できることを説明している。現在、全利用者が法人のクリニックをかかりつけ医とし、医師が在宅医療の形で毎日、利用者の往診で来所している。直接、医療相談も出来る。職員として看護師を配置し、クリニックの看護師とも連携しながら、適切な支援に繋げている。週1回、専門職によるリハビリも導入している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的ケアが必要な場合も介護医療が常に連携を持ちサービスを提供できるように体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	地域の総合病院との連携も密に取れており、救急の場合の対応も安心して受けられる体制である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	もともと重度化した方や看取りを同法人内の他事業では取り組んでおりスタッフも経験が豊かで、ご利用者様ご家族様にも安心していただける体制である。	認知症があっても、利用者の能力に応じて、自立した日常生活を支援する事に主眼を置いている。重度化により、共同生活が困難になった時や、終末期の場合は、法人内の他施設に転居できるよう支援している。利用者とはその旨を説明し理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のスタッフの対応を定期的な研修とマニュアル化ですべての職員ができるように指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近年災害が多発したこともあり災害発生マニュアルを整備し定期的に防災訓練を行うなど十分な体制を構築している。	同法人の他事業所との連携体制が構築されている。事業所間の連携の下で、利用者が数日間避難した経験を活かし、高い防災意識を持って取り組んでいる。地域の協力や防災情報も得ている。事業所周りの避難経路は利用者が歩きやすいよう、舗装している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの尊厳と確保は必須であり、ご利用者様の人格を損ねない言葉かけを職員に常に指導行っている。	人権擁護推進養成研修を受講した職員が、内部研修時に報告を行っている。全職員に利用者の人格尊重や接し方について伝達し、意識の強化を図っている。プライバシーを守る為、一部の窓を除き、室内から外は見えるが、外からの視線を遮るフィルムを貼っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定支援を念頭に置き常にご利用者サイドの目線を持ち支援するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望に沿った生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の身だしなみについてその人に合った服装で過ごすように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事が楽しみなるよう工夫して提供している。	食材は業者から調達し、三食とも職員の手作りで提供している。利用者も皮むきや盛り付け等を手伝っている。干し柿作りや漬物漬け等には、役割を持って参加している。毎月、利用者と一緒に作るランチメニューもあり、食べる楽しみにつなげている。外食も月2、3回企画し支援していたが、現在は、コロナ禍にある為、敬老会も祝い弁当で楽しんでいる。口腔ケアも徹底させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の摂取が適量となるように注意し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは特に大切と考え食後就寝時のケアを徹底して行い歯科医院と提携し定期的に歯科衛生士の訪問にて口腔ケアを定期で実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しなるべく自立して排泄行為が継続できるよう支援している。	トイレでの排泄を習慣化できるよう取り組んでいる。夜間も安易にポータブルトイレを設置するのではなく、職員がトイレへ誘導し支援している。排泄回数を気にして、水分を控える利用者には、安心感が持てるよう声掛けをしている。車いす用のトイレも用意されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者は便秘になりがちなので水分摂取や食事内容の工夫を行い、時には薬剤やお茶などの対応で健康に過ごせるよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個々の利用者のペースもあるため、タイミングを合わせ臨機応変な個別の対応ができるよう体制を整えている。	個浴で週2回の入浴を基本にしているが、利用者の要望にも応えている。浴室は、映像での確認であるが、動線に合わせて、手すりを要所に設置している。利用者の身体機能維持のため、職員はできるだけ見守りや声かけ支援で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢者の中には寝つきが悪い、不眠、昼夜逆転等諸事情を抱えるケースもあるので、個々が安心して眠れるよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の居宅療養管理指導を導入し、事業所の看護師と連携し服薬管理指導を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活が楽しく過ごせるように、手仕事やカラオケ等コロナ禍でも落ち込まず過ごせるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で中々実施できていない。近場にドライブ等が今年には出来た事である。	庭の大木の落ち葉掃き、プランターの花の水やりなど、外に出る機会が多い。散歩は天候と体調を考慮しながら、毎日実施している。現在、コロナ禍ではあるが、三密を避けた環境に配慮しつつ、貸切バスで紅葉と温泉、食事を楽しむ外出を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は実質ご家族にお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙、タブレットの活用で家族との連絡がいつでも行えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に利用者と共に共同空間の清掃をおこない、(利用者ができない所は職員)居心地よい空間を維持している。	現在の状況を踏まえ、直接、共用空間には入らず、窓越しや映像での確認となった。居室が居間の両サイドにあるという縦長の空間を活かし、室内でパターゴルフやボウリングを楽しむ事ができる。台所は中ほどにあり、利用者が自分で配膳できる位置にある。玄関を入った所には、カウンターのある事務所窓口があり、利用者いつでも声をかけることができる。明るく、整理整頓された居心地のよい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は広くスペースを取ってあるので、ご利用者が一人一人の居場所づくりが思うように行えるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は十分な広さがあり、ご自分のテイストを生かした部屋のレイアウトをし、居心地よい空間となっている。	各居室にベッド、棚、ナースコールが備えられ、テレビの持ち込みや趣味のミニ盆栽で楽しんでいる人もある。床に敷物を敷き、正座で過ごす人、こたつを持ち込むなど、自宅に近い生活様式で過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人一人の自立した生活が送れるように建物内部を洗面、キッチン、風呂、トイレといった場所分け、どこで何の役割をする等、掲示物等で工夫しわかるようにしている。		